

台湾土匪横行の爲メ清国商及台民統々廈門に
渡航ノ義ニ付上野領事ヨリ具申一件
外務省外交史料館「帝国ニ於ケル暴動関係
雜件 第一卷」(5-3-1-0-9_001)

①明治三十一年十月
(欄外)第24号B一
台湾、土匪横行ノ爲メ清国商及台民統々廈門ニ
渡航ノ義ニ付上野領事ヨリ具申一件

②(欄外)上奏

急旨
參謀総長
軍令部長

(本文)

電信訳文 三十一年九月二十九日發

着

大隈外務大臣 在廈門 上野一等領事
台湾ニ於ケル土匪ノ爲メ清国商賈其他ノ輩ニシ
テ便船毎ニ廈門ニ帰着スルモノ夥多ナリ。而シ
テ目下台北トニ商業ハ渾テ停止セラレ、諸銀行
モ亦其取引ヲ休止セリ。右兒玉総督ヘモ通報シ
置キタリ

③(欄外)秘

電信訳文 三十一年十月六日發

七日着

大隈外務大臣 在廈門 上野一等領事
廈門ヨリ台北ニ対スル商業ノ現況ハ電信ヲ以テ
報告シタル同様ナリ、清国銀行家ハ目下台北ヘ
手形ノ振出ヲ為サズ、廈門ヘ帰り来リタル者ハ
資産ヲ有スル清国商人ニシテ、其中帰化人モ加

ハリ居レリ、在留外国人ハ清国人程ニ利害ノ関
係ナキモ台湾ニ於テ警察力ノ乏シキコトハ日々
彼等ノ話頭ニ上ル問題ナリ、而シテ台湾ヨリ帰
リ来リタル清国人ハ漳州及泉州等ノ内地ニ入り
同地方ニ於テ種々台湾ニ不利益ナル風説ヲ流布
シ居レリ、廈門ニ於ケル輸出貿易ハ全ク同地方
ヨリスルモノナルヲ以テ右等種々ノ悪評伝播ス
ルニ於テハ貿易上ノ障害少ナカラザルヲ以テ曩
ニ報告セシ如ク台湾ヘ電報シ清国商人ノ安心ス
ヘキノ手段ヲ取ラレンコトヲ勸告セシナリ、右
ハ本邦ノ爲メ最モ必要ノ処置ナリト信ズ

④ 電信 十月二日午前九時四〇分台北發
同 日午後一時三十四分東京着

桂陸軍大臣

兒玉台湾総督

上野領事ハ直接ニ台湾ノ事情ヲ知ラサルト、総
督ノ施政ニ反対ノ意見ヲ有スル内地人ノ流言ニ
因リテ、報告シタルト認ム、台北ニ於テ帰順土
匪ニ対シ疑懼ヲ抱クモノアリ、其ノ結果一時廈
門ニ避難シタルモノアリト聞ク、然レトモ實際
上帰順土匪ノ爲メ禍ヲ受ケタルモノ一人モナ
シ、唯帰順土匪ノ風ヲ装ヒ徘徊スルモノアリ、
目下捕縛着手中

⑤

(欄外)内務省へ主管通商局(重岡印)(阿部印)
(欄外)機密受第一六三一号(鳩山和夫印)

機密第二十五号

近頃台北地方ヨリ入港スル汽船便毎ニ数多之清
国商人其他既ニ帝国臣民ト相成居候台民統々本
地ニ渡来スルモノ有之。其中ニハ随分彼地ニテ
資産ヲ有シ、台厦間之貿易ニ少カラサル關係ヲ
有スルモノ、即チ林本源一家ノ如キモノモ有之。

殊ニ兩三日前ノ船便ニテハ殆ント四五十名モ帰
厦致候。彼等ノ云フ処ニ依レハ目下台北ハ各地
到ル処ニ土匪横行シ、物品強奪之危難多ク、白
昼ト雖トモ人家ニ闖入シテ掠奪ヲ為スコト多
ク、到底商業之安固ヲ期スルコト不覺束。故ニ
或ルモノハ所有ノ金銭ヲ収メテ難ヲ本地ニ避ル
ルニ已ムヲ得サルニ至レリ云々ト。如何ニモ、我
カ警察ノ頼ム甲斐ナキヲ申触ラシ居候。右ノ事
情ナルヲ以テ、昨今当地人ノ台湾不安云々ヲ道
説スルコト極テ甚シク、其為メ目下ノ処台北地
方ニ対スル支那商人間ノ取引ハ殆ント停止之姿
ニテ各錢庄之如キモ凡ソ一週間前ヨリ為換事業
ハ中止致居之趣ニ有之候。

本地人一般ノ取沙汰ニ依レハ、右ノ原由タル全
ク台北ハ宜蘭地方ニ於ケル土匪頭目ノ帰順一
ヨリ發生致シタル趣ニテ本地人ハ口ヲ極テ台政
ノ威信ナキヲ冷評シ今回土匪頭目之降伏ハ真ノ
投誠帰順ニアラス、全ク総督府ハ金力ヲ以テ彼
等ニ降伏ヲ勧誘セシナリ云々。尚ホ甚シキニ至
テハ「歡待優禮割地媾和」ニ出タルモノナリ扨
ト申触ラシ居ルモノ有之候。右等ノ流説ハ台湾
統治上ニ取テ非常之妨害ト相成候ニ付、本官ハ
努テ如是之謠言ハ打消スコトニ注意致居候得
共、現ニ前陳ノ如ク彼地ニ在テ商業者不安心ノ
為メ有力商人ノ帰来スルハ實際何等ノ原因ナリ
シハアラス。依テ昨午后打電致置候通本官之ヨ
リ直ニ総督府ヘ右之趣申送立候次第ニ有之候。
尚ホ向後ノ事情ハ重テ可申進候得共、不取敢前
情御含候之為メ及報告候也

在廈門

明治三十一年十月一日 一等領事上野專一印

外務次官 鳩山和夫殿

